

Y21a 「天文教育・その他」の論文はどこに投稿すればよいのか？(III)

縣 秀彦(国立天文台)、鴈野重之(九産大工)、松本直記(慶應高校)

2013年春季年会、2014年秋季年会において、年会での「天文教育・その他」セッションでの講演数の推移と講演数全体に占める割合が増えている一方、その講演の多くが学術論文としては完成していないことの問題点を指摘した。今回の講演では、前回の発表で十分に深めることが出来なかった、天文教育や広報・アウトリーチに関する過去の学術論文掲載先の調査結果を示し、関係者間で議論を深めたい。

天文教育普及研究会誌「天文教育」、日本地学教育学会「地学教育」、日本科学教育学会「科学教育研究」、日本理科教育学会「理科教育学研究」、日本教育工学会「日本教育工学会論文誌」、日本サイエンスコミュニケーション協会「サイエンスコミュニケーション」等の和文論文誌8誌への天文教育・普及に関する論文掲載数や引用数を調査した。現状として、日本においては天文教育・普及論文および関連する研究成果発表は分散して存在しており、この分野の研究者や関係者が相互に理解を深めることを強く阻害していることが分かった。このため、本講演では、天文教育や天文学に関する科学コミュニケーション活動に関する論文データベースの必要性と、論文をはじめとするオンライン上の研究関連コンテンツのオープンアクセス化について論じる。さらに、国際論文誌等への投稿状況の紹介と海外への情報発信についても議論したい。

参考文献：縣, 鴈野, 松本, 「学術研究としての天文教育・普及」, 天文月報, Vol.108(8), 2015